

三浦綾子原作・小川政弘脚色

「クリスマス・ファンタジー 珍版 舌切り雀」<sup>すずめ</sup>

< 前編 >

歌(斉唱) 弓矢を持っても カカシはカカシ

当たらぬ弓矢は 怖くない

田んぼにゃ稲穂が実ってる

空は秋晴れ 日本晴れ

チュンチュンチュンチュン 楽しいな

(音楽) (民謡風ののどかなもの)

ナレーション 遠い遠い昔のお話です。ある田舎に、おじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんはとても心の優しい人でしたが、おばあさんは少し意地悪でした。二人の住まいの裏山の奥深くは、めったに人の行かぬ竹やぶになっていて、そこは雀たちの宿でした。

(効果音) (雀の鳴き声)

ナレーション その中の一羽、チイ子は、おじいさんのところに出てきては、いつもきれいな声で歌うので、おじいさんにかわいがられていましたが、時々いたずらをするので、おばあさんには嫌われていました。

チイ子 弓矢を持ってもカカシはカカシ

当たらぬ弓矢は怖くない

ナレーション 時は秋。たわわに実った稲穂の中で、カカシの周りをチイ子は楽しそうに飛び回っていました。山に行こうと出てきたおじいさんも、思わず立ち止まって聞きほれています。

チイ子 田んぼにゃ稲穂が... あら、おじいさん。おはようございます。

おじいさん おはよう、おはよう。いつ利いてもいい声じゃ。お前のかわいい声を聞くと、命が延びるような気がするわい。

チイ子 ありがとう、おじいさん。

おじいさん 雀や、わしはのう、これから山へ芝刈りに行ってきますぞ。間もなく寒い寒い冬がやってくるでな。

チイ子 行ってらっしゃい、おじいさん。でも、おじいさんがいらっしゃらないと、なんだか寂しいわ、わたし。

おじいさん チイ子や。おばあさんにかわいがられるよう、おとなしくしているんだよ。おばあさんは、おいたをされるのが嫌いだからね。

チイ子 はい、分かりました。お利巧にしますから、早く帰ってね、おじいさん。

おじいさん よしよし。

チイ子                    あんまりあんまり歌ったら  
                             おなかがすいた すきました

ナレーション            と、チイ子は目ざとく、おじいさんの家の縁側にタライに入れておいてあった、おばあさんが布地の張り物に使うノリを見つけました。

チイ子                    おや、ノリがある。おいしそう！ 食べたいなあ。おばあさんが使うノリだけど、少しぐらいなら食べても分からないわ、きっと。(舌つづみ)わっおいしい！(舌つづみ)もう少し...(舌つづみ)ほんのもう少し...(舌つづみ)ほんとにおいしい、ほんとに(舌つづみ)ほんとに... もう少しだけ(舌つづみ)あら、全部食べちゃった。またおばあさんにしかられるう。どうしよう。どうしよう...。

(音楽)                    (不安そう)

ナレーション            そこへ、家の奥からおばあさんが出てきました。

おばあさん              なんとよいお天気だろう。張り物をするにはもってこいのお天気だこと。おや、ノリがない！ だれのいたずらだ！ チイ子！ お前だね、またノリを食べたのは！

チイ子                    ごめんなさい、ごめんなさい。

おばあさん              いやいや、今日はもう勘弁できないよ。おじいさんにかわいがられてるのをいいことに、悪さばかりして！ につくいチイ子め！ お待ち、その舌を切ってやる！

チイ子                    ごめんなさい、ごめんなさい。おばあさん、<sup>ゆる</sup>赦してください。

おばあさん              待てえ、待てえ！ ここで舌を切らねば「舌切り雀」の話ではなくなるわいのう。

(音楽)                    (不安そう)

おばあさん              ほうら捕まえたぞ。

(効果音)                (鋏がチャキチャキいう音)

チイ子                    ごめんなさい、もう二度としませんから。お願いします。...あぁっ！

(少し間)

チイ子                    わたしが わたしが悪かった  
                             けれども舌を切るなんて  
                             ああ恐ろしい おばあさん  
(間奏 - 転調)  
                             (悲しそうに)山へ出かけたおじいさん  
                             優しい優しいおじいさん  
                             さよならさよなら おじいさん  
(間奏 - 転調)  
                             神様どうか おばあさんの  
                             罪を赦してくださいね

ナレーション            こうしてチイ子は、おじいさんのもとから姿を消しました。山から帰ってきて、お

ばあさんから一部始終を聞いたおじいさんは、たいそう悲しんで、一生懸命雀の宿を探しましたが、チイ子の行方はようとして知れませんでした。

おじいさん           あれからふた月探しても  
雀の宿は分からない  
ああ雪が降る 雪が降る  
お宿はどこじゃ 雀さん

雀 A                   雀の...

雀 B                   お宿は...

雀 C                   こちらでございます

雀 ABC               おじいさん、お待ちしておりました

(音楽)               (ジングルベル、BGM)

おじいさん           おお、おお、チイ子、元気じゃったか？ よかった、よかった。

チイ子               おじいさん、ご心配くださって、どうもありがとうございます。今日はよいところ  
においでくださいました。ちょうど今、雀の宿のクリスマスをしていたところで  
す。

おじいさん           雀の宿の、クリスマス？

チイ子               はい。今日は、イエス様のお誕生日なのです。

おじいさん           イエス様？ どこの人やら分からぬが、まあお祝い事は何であってもうれしい  
ものじゃ。

雀 ABC               「今日、ダビデの町で、あなた方のために救い主がお生まれになりました。こ  
の方こそ主キリストです。」

チイ子               さあ、おじいさん。ごちそうを召し上がりながら、どうぞ一緒に、救い主のお  
生まれをお祝いしましょう。

(音楽)               (メドレー)「きよこの夜」「もろびとこぞりて」「紙のみ子は」

おじいさん           いやあ、楽しかったのう。ありがとう、ありがとう。さて、わたしはそろそろおいと  
まし溶解。

チイ子               まあ、おじいさん、まだよいではありませんか。

おじいさん           いやいや、ばあさんも独りで寂しいだろうし。

チイ子               そうですか。では今日のプレゼントに、軽いつづらお思いつづらのどちらを差し  
上げましょうか。

おじいさん           そうよのう。わしは年寄りじゃで、軽いつづらを頂きましょう。

チイ子               そうですか。では、はいどうぞ。

おじいさん           ありがと、ありがと。では、チイ子、元気にいるんだよ。

チイ子               おじいさん、どうかまた来てくださいね。

雀 ABC               お待ちしています。

おじいさん           皆さん、ありがとう。大変楽しいクリスマスでしたぞ。

かわいい雀よ 皆さんよ  
楽しい楽しいクリスマス  
ほんとにありがと さようなら。

チイ子、ABC 雪が降ります おじいさん  
どうぞお風邪を召さぬよう  
達者でお過ごしくださいね

ナレーション こうしておじいさんは、お土産のつづらを背に、喜びながら家に帰ってきました。  
おじいさん 雀のお宿はクリスマスでのう。チイ子もたいそう元気じゃったよ。  
おばあさん そんな話よりさ、そのもってきたお土産を早く開けて見せてくださいよ、おじいさん。早く、早く。  
おじいさん よしよし。ところでのう、ばあさんや。軽いつづらと重いつづらのどちらがよいかと言うのでな、わしは年寄りじゃで、軽いのをもってきたんだよ。  
おばあさん まあ、なんとかいしょうのないおじいさんだこと。だからいつも貧乏しとるんじゃ。重いつづらがなんじゃ。男のくせに。この意気地なし！  
おじいさん (つづらを開ける) おや、これは本じゃ。見たことのない本じゃ。何？「聖書」と書いてある。  
おばあさん 本？ また、たった1冊の本だけ？ なんと情けない。ああ、どこぞの国の大臣の嫁になればよかった。  
おじいさん 「聖書」か…。「聖書」とは、おばあさん、一体何じゃろうのう。  
おばあさん バカバカしい。こんな本などとレットペーパーにもなりはしない。そうだ！ わたしが行ってその重いほうのつづらをもってこよう。  
おじいさん そんな、ばあさん。恥ずかしいことを。  
おばあさん 何が恥ずかしいもんか。偉い人を見してみい。皆自分から催促してお金を出させてるじゃないか。“善は急げ”じゃ。では、行ってきますよ、おじいさん。  
おじいさん ヤレヤレ。何が“善”なものかね。  
ナレーション こうしておばあさんは、息せきって雀の宿にたどり着きました。  
おばあさん 雀、雀、お宿はどこじゃいな。  
舌切り雀のいたずら雀。  
雀のお宿はどこじゃいな。

雀 A 雀の…  
雀 B お宿は…  
雀 C こちらでございます。  
チイ子 まあ、おばあさん。よくおいでくださいました。どうぞお入りくださいませ。  
おばあさん いやいや、わしはただつづらをもらいにきただけじゃ。さあ、一刻も早くつづらをお出し。

チイ子 重いつづらと軽いつづらがございます。どちらがよろしいでしょうか？  
おばあさん 聞くまでもないことじゃ。重いつづらに決まっているわ。  
#モノローグ 舌切り雀のおばあさんが、軽いつづらをもったなどとは、聞いたことがないわい。  
ナレーション こうしておばあさんは、振り返りもせずに重いつづらを背負って歩き出しました。  
おばあさん うんとこどっこい、どっこいしょ。何のこれしき、うんとこどっこい、どっこいしょ。重けりゃ重いほど、楽しみも大きいというもんじゃ。それにしても...(よろめく)、おととと、ふうー。ここでちょっと一休みじゃ。よっこらしょと。それにしてもなんと重いつづらなんだろう。きっと金、銀、サンゴにダイヤモンド、大判小判がザックザク。あるいは5億の札束がぎっしりかも…。ああ、家に着くまで待ちきれんわい。どれ、ちょっとのぞいてみましようかい…。  
ナレーション その時でした。  
(音楽) (ショッキングな感じ)

<後編>

ナレーション これは、ちょっぴり変わった「舌切り雀」の物語です。おばあさんが布地の張り物に使うノリを食べてしまって、意地悪おばあさんに舌を切られてしまった雀のチイ子。そのチイ子をおじいさんがやっと探し当てた日、雀の宿ではイエス様のお誕生日、クリスマスの楽しいお祝いの真っ最中でした。おじいさんがプレゼントにもった軽いつづらの中身は、1冊の聖書でしたが、欲張りのおばあさんは、重いほうのつづらをもらおうとおもって、雀の宿に出かけ、目指す重いつづらももらって帰る途中でした。  
おばあさん うんとこどっこい、どっこいしょ。何のこれしき、うんとこどっこい、どっこいしょ。重けりゃ重いほど、楽しみも大きいというもんじゃ。それにしても...(よろめく)、おととと、ふうー。ここでちょっと一休みじゃ。よっこらしょと。それにしてもなんと重いつづらなんだろう。きっと金、銀、サンゴにダイヤモンド、大判小判がザックザク。あるいは5億の札束がぎっしりかも…。ああ、家に着くまで待ちきれんわい。どれ、ちょっとのぞいてみましようかい…。  
ナレーション と、その時です。  
(音楽) (ショッキング。お化けが飛び回っている。BGM)  
おばあさん ヒャー！ おた、おた、お助けえ〜〜！  
ナレーション なんと、つづらの中から出てきたのは、世にも恐ろしい三つ目小僧や、口裂け女や、ノッペラボーや、巨大な天狗などのお化けの数々だったのです。  
おばあさん だれか来てえ〜〜！  
(音楽) (一瞬鋭く高まる)

おばあさん た、助けてえ、助けてえ、助けてくだされえ～～！  
(音楽) (聖なる静かな音楽)  
ナレーション と、そこに立たれたのは、イエス・キリストでした。  
イエス (エコー)おばあさん、おばあさん、一体どうしたのです？  
おばあさん ああ、どなたかは存じませんが、お助けください。お化けが、お化けが…。  
イエス おばあさん、よく見てごらんなさい。あれはね、お化けではありません。  
おばあさん え、お化けではない？ そんなことがあるもんか。  
イエス あれは、あなたの心の姿です。  
おばあさん なんだって？ あれがわたしの心だって？ わたしの心があんな恐ろしい姿を  
していると言うのかね？ 冗談じゃない。  
イエス そうです。冗談じゃありません。ほら、この三つ目小僧をご覧なさい。これは  
“欲深い心”の姿です。眼は二つでいいのに欲張って三つもあるでしょう？ あ  
なたは欲深くありませんか？  
(音楽) (お化け出現の気味悪い音楽)  
おばあさん 欲は… それほど深くはない。人並みじゃ。(音楽、一瞬鋭く高まり、低く)いや  
いや、深いかもしれない。何しろ重いつづらをまたもらってきたんだからねえ。  
イエス 次の口裂け女は、“意地悪”の姿なのです。意地悪をした覚えはありません  
か？  
おばあさん それは…。(音楽、一瞬鋭く高まり、低く)はい、あります。わたしは雀の舌を切  
りました。  
イエス 次のノッペラボーは、“焼きもち”の心の姿です。  
おばあさん (素直に)分かりました。申し訳もありません。わたしは本当に悪い女です。焼  
きもち焼きで、怒りん坊です。だから、チイ子の舌も切ったのです。なんとむご  
いことをしたのでしょうか。ああ、わたしがどんなに悪い、恐ろしい心の人間か、  
今やっと気がつきました。  
おばあさん(歌) なんと醜いわたしでしよ  
なんと恐ろしいわたしでしよ  
どうかお赦しくださいな  
今から心を変えます  
今からあなたに従います  
おばあさん ああ、わたしはなんと罪深い、恥ずかしい人間なのでしょう。  
イエス いいえ、あなただけが罪深いのではないのです。人間は、大人も子供も皆、同  
じ罪びとです。自分だけがよければよい。自分の家族だけが幸せならよい。人  
より少しでもよい学校に入りたい。出世をしたい。お金が欲しい。自分より優秀  
な人間が憎い。重いつづらと軽いつづらを出されたら、だれも彼も、重いつづ  
らをもraitたいと思う人ばかりです。

おばあさん ところで、あなたはどなたなのですか？ あなたとお話ししていると、わたしの心がなぜか、不思議に素直になってくるのです。

イエス わたしはイエス・キリストです。

おばあさん イエス・キリスト？ 聞いたことのないお名前ですが、ご商売は？

イエス 商売ですか？ そうですねえ。わたしの仕事は、人を罪の重荷から救うことです。人の罪を身代わりに負って、救ってあげるのが仕事なのです。

おばあさん え、人の罪の身代わりに救うのが仕事ですって？ ではわたしも救っていただけますか？

イエス 救ってあげますとも。すべて重荷を負っている者は、わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。罪を悔い改めた人は、みんな救われるのです。

おばあさん では、あの恐ろしいわたしの罪の入った重いつづらは？

イエス もちろん、わたしがあなたの代わりに背負ってあげましょう。

おばあさん え、あなたがですか?!

イエス そうです。わたしは人々の罪を背負うために、この世に生まれました。今日、雀の宿では、クリスマスをお祝いしてたでしょう？ あれは、このわたしの誕生日のお祝いなのです。

おばあさん まあ、なんとありがたいお方でしょう。もう一度お名前を教えてください。

イエス イエス・キリスト、神の子です。

おばあさん え、神の子ですって?! 道理で神々しい、優しいお方だと思いました。でも髪のみ子とお話ししたりして、罰が当たります。どうぞわたしの罪を赦してください。イエス様！

イエス おばあさん、あなたの罪は赦されました。これ、このとおり、あなたのつづらをわたしが背負いましょう。

おばあさん まあ、なんともったいない。それではわたしの罪をそっくり、イエス様に…。思い思いつづらでございますよ。

ナレーション と、その時でした。物陰からおじいさんが出てきました。おばあさんのことが心配で跡を追ってきたおじいさんは、さっきから一部始終をこっそり見ていたのです。

おじいさん イエス様とは、あなた様でしたか。わたしは今日、雀のお宿で、あなた様のお誕生をお祝いしました。

イエス それはありがとう。

おじいさん いやいや。ところでイエス様、わしはこのおばあさんのように欲深くもなく、意地悪でもないことを感謝いたします。わしは何一つ罪を犯さず正しく生きてきたのです。それでのう、あなた様に重い荷物を負わずに済むのじゃ。

イエス そうですか、おじいさん。しかし全く正しい者は、世界中に一人もおりませんよ。



おじいさん え？ 正しい人が一人もおらん？  
イエス そうです。ただの一人もです。  
おじいさん じゃが、ここにわしがおるじゃありませんか。舌切り雀のおじいさんは、欲のない、優しい人間だと昔から言われておりますぞ。このわしに罪などあるわけがないではありませんか。  
イエス ほんとにそう思いますか？  
おじいさん そうですとも！ わしのことを悪く言った人は一人もおりません。だれにも優しく親切で、申し分のない人だと言う人ばかりです。神様のようにと言われるほどです。  
イエス そうですか。では後ろを見てごらんさい。  
(音楽) (先ほどの不気味な音楽)  
おじいさん ひ、ひえ～～！ て、て、て、天狗のお化け！  
イエス あの高い鼻をご覧なさい。あれがあなたの本当の姿です。“ごう慢”の姿です。わたしは、あなたの言葉を聞いて悲しく思います。自分には罪がないと思うほど大きな罪はないのですよ。これは神様の一番嫌いな重い重い罪ですよ。むしろおばあさんより罪が重いとと言えるかもしれません。  
おじいさん え、おばあさんより、このわしのほうが罪深い?! そんなムチャな。  
イエス いいえ、ムチャではありません。自分の罪が分からねば、悔い改めることができません。罪はそのまま残るのです。  
おじいさん ……うーむ。罪が残る……。なるほどのう。(間)分かりました。なるほど、今、目が覚めました。今の今まで、わしは自分が正しいと思い、長年連れ添ったばあさんをバカにしてきました。  
おじいさん(歌) 罪があるのを知らないで  
正しい自分とってた  
ああ恥ずかしや恥ずかしや  
どうぞお赦し願います  
今からあなたに従います  
イエス よく分かってくれましたね。さあ、今こそあなたの罪は赦されました。  
おじいさん あ、ありがとうございます。ありがとうございます。  
ナレーション こうしてイエス様は、おじいさんの罪の分もつづらに入れて、それを背負い、歩き出されました。  
おばあさん まあ、あの重そうなこと。  
おじいさん もったいない。申し訳ない。わしの罪を代わりに負わせて…。  
おばあさん わたしたちは肩が軽くなって。ほんに、申し訳ないねえ。  
(音楽) (讃美歌 138)  
ナレーション 見送る二人の前を、イエス様の姿は次第に遠ざかりました。 と、その時で



した。

おじいさん おや、あれは何だろう？

おばあさん あの方だ！ イエス様だ！

ナレーション 二人の目の前に、小高い丘の上で、十字架につけられたイエス様の姿が現れたのです。

おばあさん イエス様が十字架にかかられた！

おじいさん これは一体どうしたことだ。どうして神の子が十字架にかかれるのだ？

(音楽) (讃美歌「神のみ子は」BGM)

イエス (エコー)それは、あなた方の罪のためです。本当は世界の人々が、自分の罪のために十字架にかかるはずでした。しかしわたしが代わりにその罪を負います。わたしはそのためにこの世に生まれたのです。おじいさん、あなたにあげた聖書には、そのことが詳しく書かれています。その聖書こそ、あなた方に本当の幸せをもたらす、この世で一番すばらしい宝物なのです。

さあ出て行って、このクリスマスの喜びを、世界中に伝えてください。

(音楽、高まって )

< 完 >